

2022 年 5 月 30 日
日光ケミカルズ株式会社

**日本薬剤学会「製剤の達人」
日光ケミカルズ 研究員の宇治謹吾への
授与が決定**

日光ケミカルズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員 中原 秀之）は、同社中央研究所医薬品グループ所属の研究員である宇治 謹吾が、医薬品製剤技術の研究開発への功績が称えられ、第 29 回（2021 年度）の「製剤の達人（日本薬剤学会）」を授与されたことを、お知らせします。

日本薬剤学会では、「製剤の達人：The Master of Pharmaceutical Technology」の称号を医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し、研鑽につとめて衆目の一致する高い技術を確立した者の業績を称えるため授与されており、今回で 29 回目となります。また、本称号は、製剤技術を広く伝承することを目的に同学会が主催する「製剤技術伝承講習会」の講師の認証としても位置付けられています。

宇治氏は、日光ケミカルズがご提供する研修・研究の場である「開放研究室」の講師として、医薬品業界、パーソナルケア業界の研究員の皆様に、「基礎研修」「応用技術研修」を通じて、製剤に関する知識と技術の伝承に、長年携わってまいりました。その研究員数は約 2,000 人におよび、国内にとどまらず、海外からご訪問いただいた多くの研究員とも交流を深めております。

宇治氏によるこの活動は同開放研究室に留まらず、日本薬剤学会や製剤機械技術学会等において、約 20 年間におよび、講演や実習付きセミナーを通じて処方化技術のノウハウを広めております。この度、本活動が日本薬剤学会に認められ、原料メーカーの研究員としてはめずらしく「製剤の達人」を授与されたことは、当社としても大変名誉なことであると存じます。

この名誉ある授与を受け、宇治氏は、「入社以来、多くの時間を『処方化開発』『製剤化開発』に携わってきました。医薬部外品の有効成分や外用剤の薬物の乳化は

難易度が高いものが多く、その都度試行錯誤しながら処方化していたのを思いだします。

自社原料の製剤化および界面活性剤の使い方など、開放研究室を通してお客様とお話しする機会が多くありました。外部のセミナーで議論を交わしたり、開放研究室の持込みテーマを通してお客様と一緒に課題解決するなど、私自身が未経験の問題を相談されることも多くあり、実験を通してお客様とともに解決策を模索し、また、先輩や同僚のアドバイスを得ながら解決するよう努めてきました。

こうした経験を経て、半固形製剤教育研修会での講義や、日本薬剤学会の『若手研究者のための製剤化技術の伝承講習会』の講師を務めさせて頂いたこともあり、今回の『製剤の達人』の受賞につながったものと考えます。

これに驕ることなく、新しい情報・技術を取り入れお客様のお役に立てるよう、これからも日々努めていきたいと考えます」。

最後に、宇治氏は、2022年6月16日から製剤機械技術学会主催の「半固形製剤教育研修会（全6回）」にて、「界面活性剤の構造と半固形製剤の処方組み」について講演、また「実習動画 ビーカースケール試作/物性評価」と題して、①軟膏、クリーム剤の製剤の調製、②有効成分の安定化のための処方化の実習をいたします。

製剤機械技術学会主催「半固形製剤教育研修会（全6回）」

リンク先：

https://www.seikiken.or.jp/schedule/kyouiku/kyouiku15_hankokei2022.html

日光ケミカルズは2022年4月にグループ会社の株式会社コスモステクニカルセンターと合併し、販売機能と研究開発機能を統合させました、その背景として、パーソナルケア事業に次ぐ第2の柱を育成すべく事業部制を導入し、パーソナルケア事業部（国内/海外）、医薬品事業部、化成品事業部、また新規事業開発室を設け、新たな体制でより開発提案型企业として、お客様をサポートしてまいります。

当社医薬品事業部では、長年培ってきたコロイド化学、皮膚科学をもとに、外用剤市場を中心に高品質な原料を開発、ご提供してまいりました。このノウハウを、医薬品事業を展開される企業様に知っていただき、新たな価値と一緒に生み出していきたいと考えております。

今後も新生・日光ケミカルズの医薬品事業部の技術力にご期待ください。



＜略歴＞

宇治 謹吾（うじ きんご）

学 歴	1985 年 昭和薬科大学大学院薬学研究科修士修了
職 歴	1985 年 日光ケミカルズ(株)入社。開放研究室配属。化粧品・医薬品製剤処方開発担当。 1987 年 製剤開発部配属、自社乳化製品開発担当。 1989 年 製剤開発センター(KSP)配属。自社および国内外の新規原料の製剤開発担当。 1991 年 製剤開発部配属。自社乳化製品開発、化粧品・医薬品製剤処方開発、 OEM 製剤処方開発、などの応用製剤開発担当。 2001 年 株式会社コスモステクニカルセンターに転籍。開放研究室室長。応用製剤開発および得意先顧客の製剤処方開発の技術指導・援助担当。 2020 年 開放研究室 テクニカルアドバイザー。 2022 年 合併および組織移動に伴い日光ケミカルズ(株) 中央研究所 医薬品 G に至る。
専門分野特技 など	処方化技術、製剤化技術

お問い合わせ先

日光ケミカルズ株式会社

広報室 担当：曾根

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-4-8

E-mail : nk_corporate_communications@nikkolgroup.com